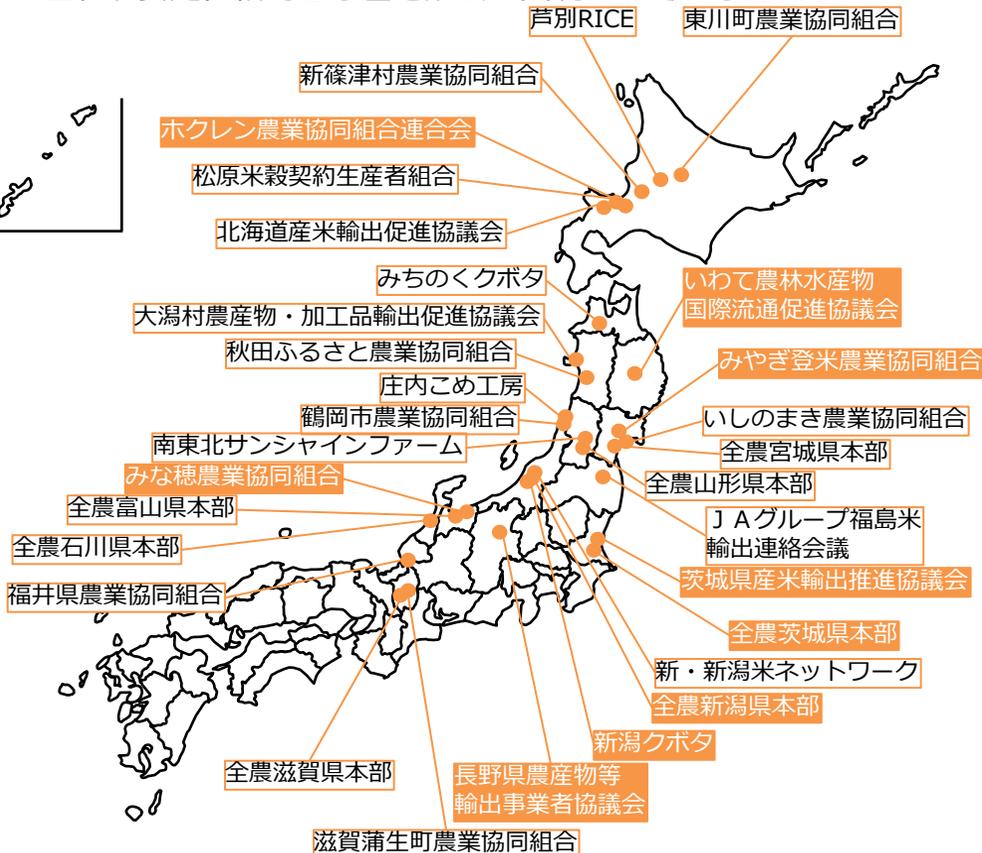


主なコメの輸出産地について

○ コメの輸出を更に伸ばすためには、コメの輸出量の9割を占める「モデル産地」（「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」でリスト化した年間1,000トン超のコメ輸出を目標とする産地）を中心に、低コスト生産等の取組を支援し、競合する他国産米との価格競争力を高めていく必要。

モデル産地（30産地）（令和6年12月末現在）

- モデル産地で、令和4年のコメの輸出量約29,000トンの9割をカバー。
- 年間1,000トン超の実績のある産地も存在（オレンジ色の産地）。
- それらの産地では、多収性品種の導入等による低コスト生産と大ロット安定供給できる産地形成が実現されているところ。



とめ みやぎ登米農業協同組合

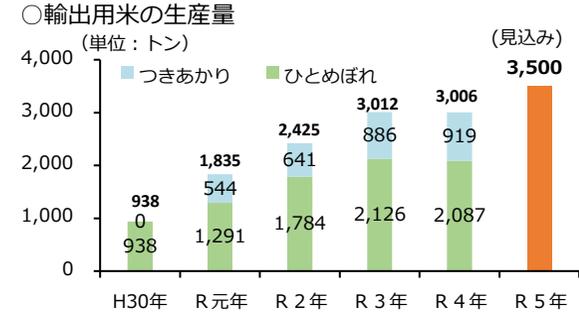
【取組内容】

「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、つきあかり等の多収性品種の導入と併せて、**耕畜連携による堆肥の有効活用**を図り**低コスト生産を推進**。
 輸出用米の生産者数が増加（H30年235人→R4年492人）



【生産実績】

R7年度の目標として掲げていた**3,000トン**をR3年度に達成。今後も継続安定した出荷を目指す。輸出先は、香港を中心に米国、シンガポールなど。



茨城県産米輸出推進協議会

【取組内容】

協議会のオブザーバーである(株)百笑市場では、「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、**多収性品種**（にじのきらめき、ハイブリッドとうごう3号）の**契約栽培を推進**。そのほか、**ドローンによる直播・病害虫防除等の省力・低コスト化の取組を推進**。



協議会の参加者（生産者）数が増加（H28年8人→R5年85人）

【生産実績】

R4年の生産量は1,086トンで、米国、香港、シンガポール等に輸出。



注）モデル産地の輸出量の割合は、各産地から聞き取った実績を積み上げたものを基に計算。